



2015年(平成27年) 11月22日発行

- 主な内容
- 4……市職員の給与などの状況
 - 5……パブリックコメント
 - 6……平成27年度市職員採用候補者試験案内
 - 7……12月の二次救急実施病院
 - 8……市有地販売のお知らせ

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 印刷 http://www.city.nabari.lg.jp

1～3ページで表記している金額は、表示単位未満を四捨五入して示します。そのため、合計が合わない場合があります。

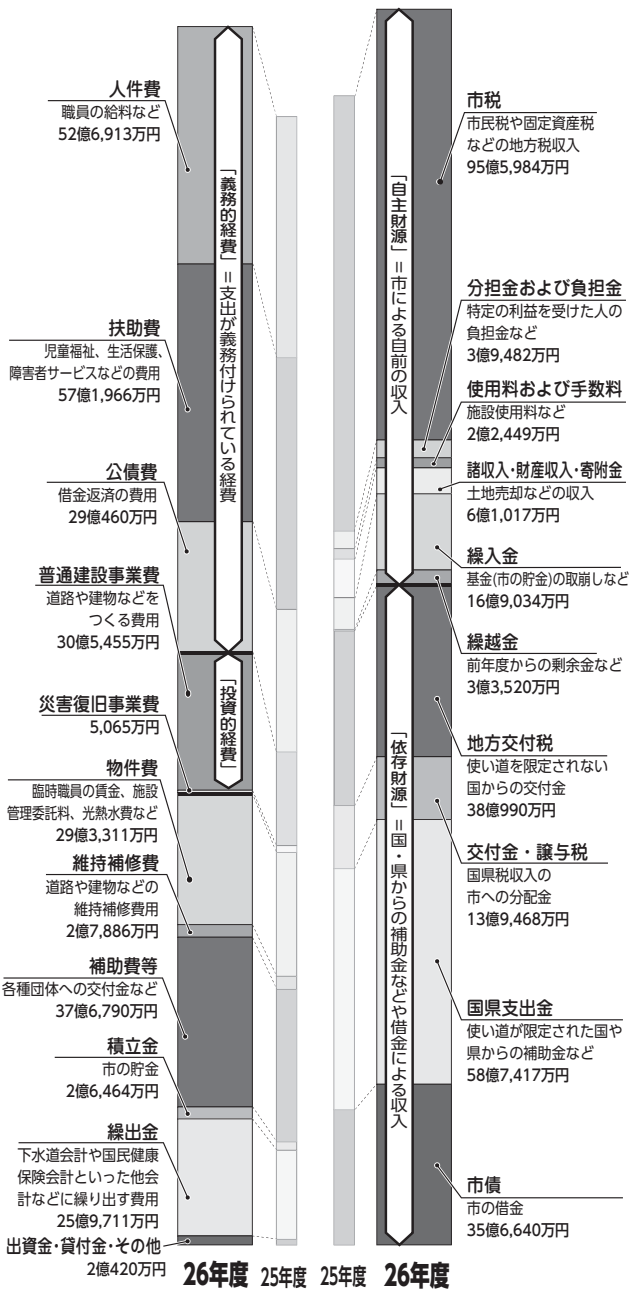
一般会計実質収支

歳入歳出差引額 翌年度繰越財源

3億9,481万円の黒字(4億1,560万円-2,079万円)

歳出 270億 4,441万円 (平成25年度 250億27万円)

歳入 274億 6,001万円 (平成25年度 253億3,546万円)



平成26年度一般会計、特別会計、企業会計の決算が、市議会9月定例会で認定されました。平成26年度は、一般会計、特別会計ともに黒字決算でしたが、一般会計は水道事業会計からの借入れや基金の取崩しにより黒字としたのが実情であり、依然として厳しい財政状況です。今号では、平成26年度決算の概要をお知らせし、市の財政状況を検証します。

26年度 決算を検証



- 国政経営室 63・7403
- 上下水道部経営総務室 63・4114
- 市立病院経営総務室 61・1100 (代表)

平成26年度決算 検証1 一般会計歳入

総額 274億6,001万円

「自主財源」(市による自前の収入)が前年より9億4,384万円の増となりました。これは減債基金や、国民健康保険財政調整基金からの繰入れの増や、財源不足に対応するための水道事業会計からの借入れなどにより、繰入金が前年と比較して9億9,252万円増えたことなどが主な要因です。

「依存財源」(国・県からの補助金や借入金などによる収入)は11億8,071万円の増となりました。これは小・中学校耐震改修事業などの普通建設事業の実施に伴い市債が5億5,710万円増加したことや、子育て世帯臨時特例給付金及び、臨時福祉給付金の給付事業の実施に伴い、国庫支出金が3億4,535万円増えたことなどが主な要因です。

平成26年度決算 検証2 一般会計歳出(性質別)

総額 270億4,441万円

「義務的経費」では、人件費が前年より8,447万円の減、公債費も2億6,449万円の減となる一方、補助費は3億8,867万円の増となりました。補助費の増要因は、国制度による臨時福祉給付金や、子育て世帯臨時特例給付金などの給付事業があったためです。

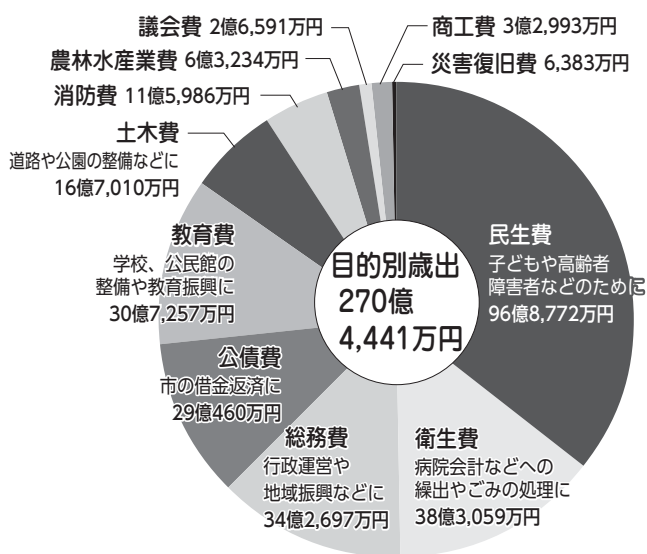
「投資的経費」は、普通建設事業費が前年と比べると9億7,101万円の増となりました。これは小・中学校の耐震改修事業が主な要因です。また、繰出金は前年度と比較すると6億1,725万円の増となりました。これは公共下水道事業会計や国民健康保険特別会計などへの繰出金が増えたことによるものです。

2ページへ続く

平成26年度決算
検証 3

どんな目的でお金を使ったの？

一般会計 目的別歳出と主な事業内容



主な事業内容

民生費

- ▼障害者自立支援費 …14億 8,592万円
- ▼介護保険特別会計繰出金 …7億 4,995万円
- ▼児童手当・子ども手当給付費 …12億 8,801万円
- ▼生活保護扶助費 …7億 1,389万円

衛生費

- ▼病院事業会計繰出金 …13億 6,628万円
- ▼伊賀南部環境衛生組合分担金 …14億 6,179万円

教育費

- ▼小学校耐震改修事業 …8億 9,259万円
- ▼中学校耐震改修事業 …3億 2,460万円

土木費

- ▼公共下水道事業特別会計繰出金 …4億 3,716万円
- ▼道路新設改良費 …3億 196万円

農林水産業費

- ▼農業基盤整備費 …1億 4,640万円
- ▼農業集落排水事業特別会計繰出金 …1億 6,227万円

商工費

- ▼企業立地推進事業…3,136万円

平成26年度決算
検証 4

市の貯金(基金)残高は？

財政調整基金は 59 万円

基金による年度間調整は難しい状況です

市の貯金である基金のうち、年度間の財源の不均衡を調整できる基金が「財政調整基金」と「減債基金」です。

平成26年度末の残高は合わせて、136万円(内、財政調整基金は59万円)の枯渇状態にあり、基金による年度間調整が難しい状況です。今後は基金を計画的に積み立てていく予定です。

なお、その他の特定目的基金を合わせた基金の残高は、21億6,513万円(普通会計)。前年度と比較すると4億6,831万円の減となりました。

県内14市との 財政指標比較

基金残高(21億6,513万円)は、市民一人あたりで約3万円。県内14市で最も少ない額です。最も多いのは、いなべ市で約35万円です。

平成26年度決算
検証 6

財政の健全度は？

早期健全化基準はクリアしました

平成27年度以降も早期健全化基準値を下回る見込みです

平成26年度は、早期健全化基準を下回ったものの、将来負担比率が前年度から増加しました。主な要因としては、小・中学校耐震改修事業に伴う新規借入れにより、市債残高が膨らんだことによるものです。

しかし、市全体として投資事業の抑制を図っているところであり、中期的に見ると比率は改善されていく見込みです。

自治体の財政健全度を判断する「健全化判断比率」。右表の4つの指標のいずれかが、早期健全化基準を超えると「財政健全化団体」となり、今よりも事業の抑制を図らざるを得なくなります。また、将来負担比率を除く3指標のいずれかが財政再生基準を超えると破綻とみなされ、「財政再生団体」となります。そうなれば、事実上、国の管理下に入り、行政サービスが著しく低下すると見込まれます。

平成26年度決算
検証 5

市の借金(市債)残高は？

市の借金総額は 522 億 8,841 万円

6 億 6,225 万円の増(平成25年度に比べて)

各会計の市債残高を合計すると、522億8,841万円となり、前年度と比較すると6億6,225万円の増となっています。これは、小・中学校の耐震改修事業の前倒し実施などが主な要因です。

厳しい財政状況の中、必要最小限の事業に限定して予算を編成していましたが、耐震改修事業に対する国補助金などの優遇措置には期限があることから、事業の前倒しを行ったことによるものです。

各会計別の市債残高(平成26年度末)

- 【一般会計】 326億7,621万円
- 【特別会計】 住宅新築資金…3,099万円
農業集落排水…36億5,825万円 公共下水道…86億3,747万円
- 【企業会計】 水道…5億7,688万円 病院…67億860万円

健全化判断比率	名張市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率 一般会計等の赤字比率	-	12.74%	20.00%
連結実質赤字比率 すべての会計の赤字比率	-	17.74%	30.00%
実質公債費比率 借入金の返済額の大きさを財政規模に対する割合で表すもの	16.3% (-0.7%)	25.0%	35.0%
将来負担比率 現在抱えている負債の大きさを財政規模に対する割合で表すもの	186.8% (+5.6%)	350.0%	-

※算定数値が無いものについては「-」を表示しています。
※()内は平成25年度比

平成26年度決算
検証 7

企業会計(病院・水道)と特別会計の状況は?

企業会計…新しい会計基準により財務諸表が大きく変化

<病院事業会計>

病院の利用状況は、入院患者数が前年度より116人増加し、56,096人に、延べ外来患者数は前年度より1,341人増加し、83,054人となりました。

医業収支では、医業費用で人件費の増額があったものの、患者数の増加により医業収益が1億2,691万円増となったため、前年度比で6,204万円の改善となりました。

しかし、新会計基準の適用による退職給付引当金など7億3,413万円を特別損失として計上したため、平成26年度決算は8億7,980万円の純損失となりました。また、平成26年度は病院建設時の借金返済(元利償還金)のピークを迎え、資金不足比率が7.0%発生しましたが、今後は返済も減少傾向にあり、改善されていく見通しです。

区分	収入額	支出額	差引額
収益的収支	50億7,328万円	59億5,308万円	-8億7,980万円
資本的収支	5億7,905万円	8億8,774万円	-3億869万円

特別会計…全ての特別会計で黒字

<特別会計>

区分	歳入決算額	歳出決算額
住宅新築資金等貸付事業	2,720万円	2,481万円
東山墓園造成事業	3,387万円	2,927万円
農業集落排水事業	6億7,024万円	6億5,833万円
公共下水道事業	20億1,935万円	19億8,328万円
国民健康保険	91億8,580万円	89億8,333万円
介護保険	59億4,478万円	58億8,761万円
後期高齢者医療	13億2,799万円	13億2,314万円
合計	192億926万円	188億8,977万円

<水道事業会計>

平成26年度は、老朽施設の更新や改良事業、基幹施設の耐震化工事などを実施したほか、水質検査の適正な実施や、水道水のリスク管理方法を定めた水安全計画により、安全で安定した水の供給、災害に強い水道の整備に取り組みました。

収益的収入は、新会計基準の適用により減価償却に見合う長期前受金戻入を計上したことなどから、平成25年度に比べ3億6,759万円の増加しました。収益的支出は減価償却費などの営業費用の増加や、新会計基準への移行時に必要な退職給付引当金などの特別損失を計上したことにより5億6,216万円の増加となり、平成26年度決算は3億1,908万円の純損失となりました。

区分	収入額	支出額	差引額
収益的収支	18億1,824万円	21億3,732万円	-3億1,908万円
資本的収支	2億9,844万円	15億2,095万円	-12億2,251万円

用語解説

- ▼「一般会計」…教育や福祉、道路の整備など、行政の基本的な事業を実施していくための会計で、市の会計の中心となります。
- ▼「企業会計」…病院や水道など民間企業と同じように、事業の収益でまかなわれる会計です。
- ▼「特別会計」…国民健康保険税や介護保険料など特定の収入があって、一般会計と財布を分けることで、収支をはっきりさせている会計です。
- ▼「普通会計」…自治体間で財政状況を比較できるように、統一的な基準で整理した会計です。名張市では、一般会計に、住宅新築資金等貸付事業特別会計、東山墓園造成事業特別会計を合わせたものを普通会計としています。

●収益的収支…公営企業の経常的な経営活動で発生する全ての収入や支出
●資本的収支…公営企業の経営に必要な施設の整備や拡充などの建設改良費の収入や支出

平成26年度決算
検証 8

決算のまとめ・今後の財政運営

目的基金や他会計の借入れにより黒字決算

油断できない財政状況。これまで以上の歳出削減・歳入確保が必要

平成26年度は財政早期健全化計画及び、市政一新プログラムの取組み期間が終了し、名張躍進のための土台作りとして、子育て支援や雇用対策などに重点化して予算措置を行いました。

しかし、当初見込んでいたよりも市税や交付税で大幅な減収となったほか、障害者自立支援費などの扶助費や病院事業会計繰出金の追加措置などにより財源不足が生じ、これに対応するため財政調整基金や減債基金を全て取り崩し、東山墓園管理基金から1億円の借入れ、水道事業会計から5億円の借入れを余儀なくされたところです。

最終的に、平成26年度の実質収支額については3億9,481万円の余剰金が発生しましたが、これは目的基金や他会計からの借入れによるところが大きく、実質的には2億519万円の赤字でした。

◆名張市の今後の財政の見通しは?

平成27年度も当初予算で水道事業会計からの借入金を3億円計上していますが、こうした基金の取崩しや他会計からの借入れなどにも限界があり、今後も人口減少による市税減収をはじめ、社会保障費の増加や、老朽化施設の維持更新経費などの多大な財政負担が生じるため、依然厳しい財政状況が続く見込みです。

平成28年度は新しい総合計画始動の年であり、地方創生の取組みを着実に実行に移していく年となります。こうした取組みを実施していくためには、これまでの構造的な財源不足体質から脱却し、ここ数年間で、社会経済情勢や国の地方財政措置の動向に左右されない、持続可能な足腰の強い財政基盤を確立する必要があります。

◆独自課税の導入について

このような中、市議会9月定例会において、平成28年度から5年間、固定資産税の標準税率1.4%に0.3%を上乗せする独自課税の導入が可決されました。

独自課税により得られる財源は、子育て支援や住宅施策、病院機能の充実など、将来を見据え名張市が発展していくための取組みの継続と、さらなる充実のために活用していきます。

しかし、この独自課税が導入されても、市の財政状況が依然厳しいことには変わりはありません。市民の皆さんに新たな負担を求める以上、一日でも早く確固たる財政基盤を構築するため、これまで以上に歳出削減・歳入確保に取り組み、効果・効率的な行財政運営の確立に努めていきます。

